

# 境界をつなぐ人を、院内で育てる

-副看護師長の医療安全部門体験から、その視点を地域へ-



新開 裕幸

大阪大学医学部附属病院 中央クオリティマネジメント部  
副部長・看護師長





## 背景・課題

これまでの体制を基盤に、より現場に近い層へ

### 重要な基盤

看護師長によるリスクマネジメント

### 二つの安全観

Safety- I ・ Safety- II ⇒ 実践が課題

### 次の一步

副看護師長へ着目

# なぜ副看護師長か

現場と組織の境界に立つ存在

## ■ 現場に最も近い

日々の困りごと・調整・小さな変化

## ■ 管理にも関わる

病棟運営の支援／方針を現場へ

## ■ 全体像に触れにくい

組織全体を見渡す機会が少ない

現場と組織の「橋渡し役（バウンダリースパナー）」候補



一子相伝

開かれた仕事

# 「一子相伝」を手放す

任期3年の引き継ぎ発想を、職務特性理論で問い直す

## 01 「一子相伝」だった

任期3年を区切りに、一人ずつ引き継ぐもの

## 02 職務特性理論でみると弱点

自律性とフィードバックが育ちにくい

## 03 「仕事を開く」へ

部門の仕事を多くの副看護師長に見て・参加してもらう

特定の誰かへの継承から、  
部門の仕事を「開く」体制へ

# 取り組み① 対象を広げる

副看護師長の役割

管理：医療安全・感染対策・防災

実践：看護ケアの質・記録

教育：部署の教育体制

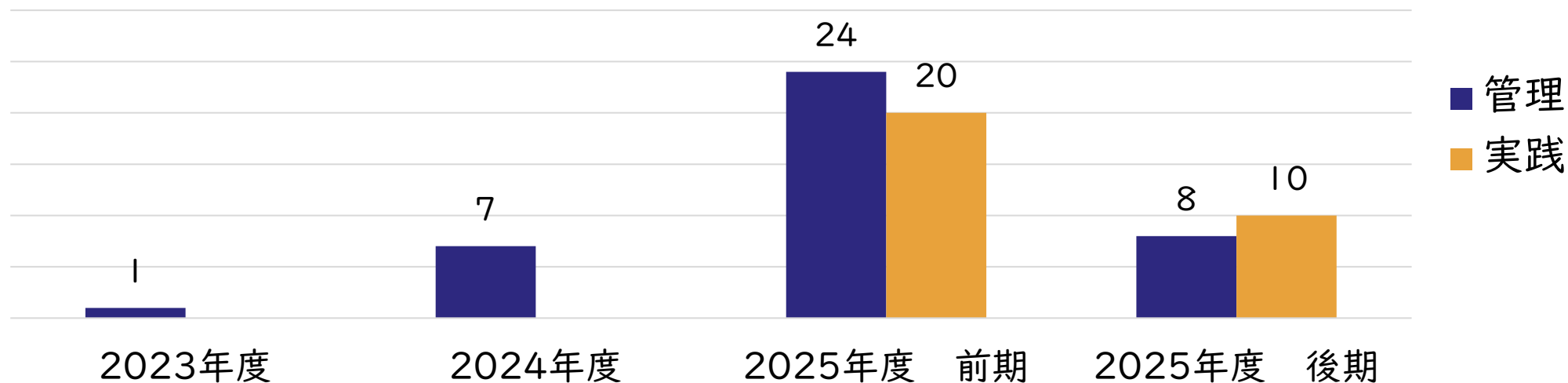
## 医療安全部門体験プログラム 参加者数

これまで

(管理担当副看護師長・希望者)

転機 (2025.5)

看護部長・副看護部長のアドバイス → 対象を拡大



●教育担当の副師長は受け入れ体制の都合で今年度は見送り  
→ 2026年度から対象に拡大予定

# 取り組み② 医療安全部門体験プログラム

## 【前半】ワークショップ

- ・ 講義：Safety-Ⅰ・Safety-Ⅱ／観察・聴き取り
- ・ ロールプレイ：2人1組で聴き取りを体験



## 【後半】見て・参加する（オブザーバー）

- ・ 導入講義：日々の安全は調整努力の痕跡
- ・ 多職種インシデントカンファに参加
- ・ 運営部会・3b以上のピアレビューに参加
- ・ 院内ラウンドに同行



## 【参考資料】インシデント事例集

現場と医療安全部門のやり取りをたどれる

# 結果① アンケート

2025年度の参加者アンケート（前期 n=44／後期 n=18）

前期 回答 44件

95%

満足

100%

聴き取りの理解

後期 回答 22件（延べ）

100%

満足

95%

自部署で活かせる

91%

Safety-II の理解

95%

後輩に勧めたい

※後期は複数回参加が可能なため回答は延べ22件（参加者18名）。前後期で設問が一部異なる。オレンジ=注目した指標。



## 結果② 現場の声

体験後アンケートの自由記述より（匿名）

### Safety-Ⅱの気づき

「上手くいっている日常に着目する」

該当 15件

### 関心・意欲の高まり

「自らリスクマネジメントを学びたい」

該当 14件

### 多職種で議論－対策に濃淡

「多職種がフラットな状態で、  
多角的にディスカッション」

該当 20件

※前期44・後期22＝計66件の自由記述内容を分類

# 意義 — 医療安全部門体験から見たこと

部門の仕事を開くと、何が生まれたか



## 01 開く

仕事の見える化、参加可能な場の提供

## 02 関わる

特定の後継者だけに閉じず、層を広げる

## 03 芽生える

自部署で考え、境界をつなぐ経験に変える

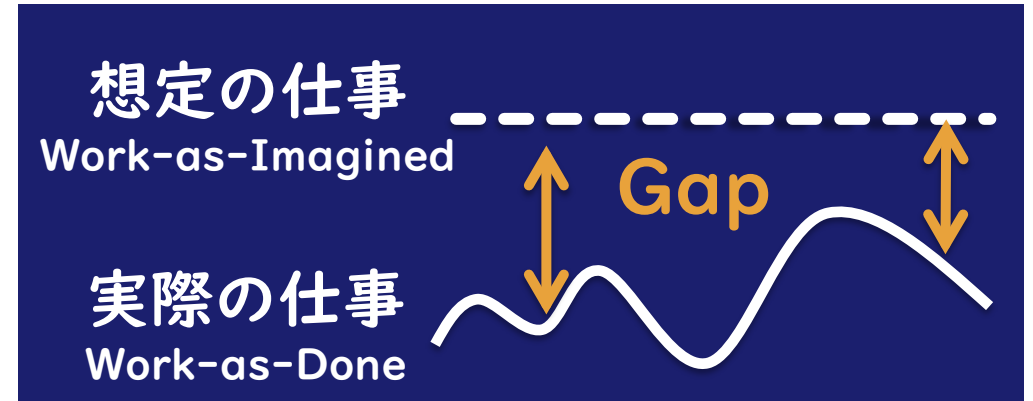
今後の課題：体験を一度きりにせず、部門↔病棟の往復へ

# 安全は現場がつくっている

01

## Safety-Ⅱ

想定と実際の「Gap」を  
現場が調整する



02

## 体験プログラムが好評

コンテンツに確かな手応え

03

## 院外へ

他施設の管理者にも展開

# ■ 院外にも

近畿厚生局 医療安全ワークショップ（令和7年11月）

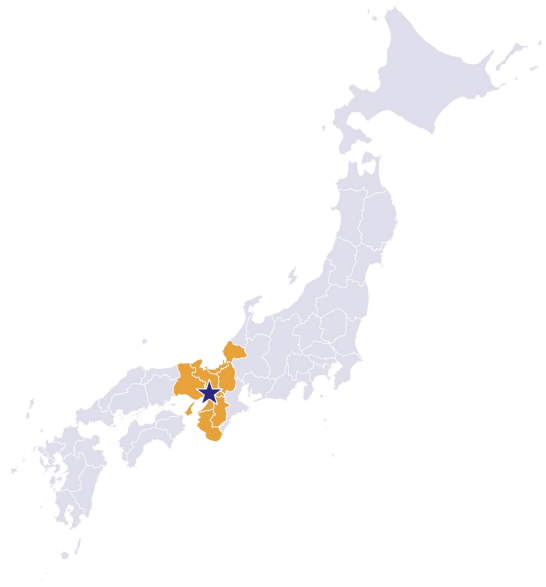
7府県・38名 が参加

講義「境界を越えて協働する」の満足度

**97%** とても満足 22, 満足 15 (n=38)

## 参加者の感想

- 件数より“成功の背景にある日々の奮闘”に焦点を当てる発想が、大きな転換になった
- インシデントレポートとどう向き合うのか。これまでの概念が一変した
- “境界の部分に橋を架ける努力”が必要だと感じた



# まとめ

本日の Take home message

- 1 発想の転換「個から個へ」から、仕事を「開く」へ
- 2 副看護師長は、現場と組織の「橋渡し役」になれる
- 3 開いて関わる形は、院内外に広げられる